



第82号

2010/12

トメ市

百閒先生 2010年岡山の街づくりと公共交通を振り返る

いよいよ今年も残すところあと3日程となりましたが、皆様お忙しくされていらっしゃるのではないのでしょうか。この度のRACDAかわら版はトメ市号という事もございまして、この世に帰省されていらっしゃる内田百閒先生に、今年1年間の岡山の街づくりと公共交通について語っていただきました。

■今年の漢字が「暑」だったとおり、本当に暑い1年だった。そのような暑い夏も遠い昔。ようやく甘いお汁粉でも飲みながらゆっくりとしようと思ったが、かわら版を書けというので、特別断る理由も無くペンをとってみた。昔ならイヤダカラ、イヤダと断っていたのだが、我ながら随分まるくなったのも歳を取りすぎたせいであろうか。ただ日頃から東京麹町の三疊御殿より狭苦しい、安住院の小さな小箱に閉じ込められているから、今日くらいは月見橋から大川（旭川）のせせらぎと相変わらず真っ黒な烏城を眺めながらペンを走らせていただく事ぐらいは許していただきたい。

■2010年1月。天気良かったか悪かったかは記憶にない。ただ後楽園の鶴の鳴き声で年の始まりを迎えたく耳を澄ませていたが、年々鳴き声が小さくなっていく。私の耳が遠くなったせいであろうか。そんな中、1月はぼんやりと過ぎ2月の中旬を迎えた時にその耳を疑うようなニュースが入った。「宇高連絡船廃止」。私自身、故郷岡山をうるさいからと煙たがり、宇高連絡船を使わずとして四国に渡った事がある。だからそういういえない立場ではあるが、やはり瀬戸内海、しかも岡山の港から船が無くなる事は寂しい。行政と企業の協力により、当分は運行されるようになったようだが、半永久的な約束などない。今度はばかりは宇高連絡船を使って高松へ行ってみようと思う。

■旭川土手の桜が誇らしげに咲き始め、春が来た。その桜が散り始め、やや寂しくなった頃、私は元気づけられるニュースが舞い込んだ。「1kmスクエア構想パート2を市へ要望」。岡山商工会議所が、国有鉄道もといJR岡山駅前を発着点に市役所一水道局一清輝橋一柳川交差点のコースで延伸・環状化の推進・実現を岡山市に要望を行ったのである。また後楽園のさつきが美しく咲き始めた頃、続けといわんばかりに、けえべんもとい両備グループが「エコ公共交通大国おかやま構想実現への提言」という事で岡山市に、高齢化と環境保全への対応を図るため、LRT（次世代型路面電車）と電気やLNG（天然ガス）を燃料としたバスを柱に、公有民営方式での協力を市に求めた。もう十年以上前からある路面電車環状化構想。自分でいうのも滑稽だが、もう「まあだだよ」とは言ってもらえない。

■夏はビール電車で楽しませて貰ったような記憶がある。だが暑いのは苦手だから記憶は定かではないが、清子と行った「瀬戸内国際芸術祭」は私の心の素晴らしき思い出として刻み込まれている。それから7月は愛する故郷岡山のプロサッカーチーム「ファジアーノ」が負け無しの2勝1引き分けだったのではないだろうか。サッカーというスポーツのルールはよく分からないが、岡山が負けるよりは勝ったほうが嬉しいに決まっている。ただ勝ったという事が嬉しく、お行儀悪いのは承知の上で、昼からビールを飲んでた。そんな珍しい楽しい夏だった。

■やがて秋風を頬に受け、夕日が眩しくも寂しく眼に映り、後楽園千入の森が赤く色づき始めた頃、「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」が岡山大学津島キャンパスにて行われた。そこでは地方公共交通の運営の難しさの現実とまたその打開策となりうる「交通基本法制定への実現」。また「電気自動車やLRT整備による環境にやさしい街づくり」への提言など、多くの人々が岡山の街という規模でなく、地球に生きる人間としていかに後世により良い環境を残していくかという論議と意思確認が行われた。私はあまり多くの人を好もうとしない人間ではあるが、本大会に参加した人間とは、一度ゆっくりと酒でも飲みながら、一夜を明かし話をしてみたいと思った。

■西風がきつくなり、さらに猫背になっていく冬の中、嬉しいニュースが舞い込んだ。「天満屋19度目出場で初V！全日本実業団対抗女子駅伝」。駅伝はわかりやすいスポーツだから好きだ。襷を受け継ぎ、一番早くゴールした組が勝ちである。しかし単純だからこそ、勝ちの意味が重く背景が美しい。とにかく「おめでとう」と言いたい。

人は歳をとると人恋しくなりますますます寂しくなっていくものだから嬉しいというこの気持ちを大切にしていきたい。私もなんだか清子の側に行きたくなってきたので、そろそろペンを置かせていただく。つまらない話に付き合っていたいただいた皆様に感謝し、安住院に戻るとしよう。サヨナラ2010年・・・。

(安藤 亮)

2011年

RACDAバス停カレンダー販売中

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502

E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

RACDA

検索

NPO法人 公共の交通ラダ
RACDA詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで

交通基本法制定を前提とした、関連制作充実に305億円

生活交通サバイバル戦略

●11月27日、岡山大学において「第5回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」が、「トランジットモデル都市・岡山をめざして」というスローガンのもと、RACDAなどが実行委員会を作って実施された。この大会では午前中には全国から51の研究発表、午後には「吉備線LRT化と路面電車環状化実現に向けて」と称するシンポジウムが行われ約500人が参加した。さらに東総社駅を対象とした「総社市のシンボルとしての吉備線LRT駅デザインコンペティション」の表彰式が行われ、世界から126点の作品が寄せられた。

●この全国大会の開催は、民主党政権で本格的に検討している「交通基本法」制定に向けての総決起大会の性格を持っており、担当の国土交通省の交通計画課長も参加して、予算要求についての説明も行った。

●民主党は高速道路無料化を政権公約としているが、財源不足からその行方は不透明である。一方全国のバス会社は2002年以来の規制緩和によって、大手バス会社だけで28社も倒産しており、毎年2000kmもの路線が赤字という理由で静かに廃止され続けている。さらに地方鉄道の多くが廃止に直面しているだけでなく、瀬戸大橋関連ではフェリー航路の廃止も直近の課題となっている。高速無料化はバス業界をも直撃している。

●国レベルでの地方交通に対する補助金の合計は、鉄道バスフェリーを含めて200億円ほどだが、一方で地方の一般財源からバスだけで450億円も出費する状態となっていた。そこで「交通基本法」で本格的高齢化や地球温暖化対策としての交通のあり方を再検討し、単なる赤字補填から、地域ごとに最適の交通モードを選び、事業者と地方公共団体、地域社会が協力して公共交通を維持していく仕組みをつくろうというわけである。

●生活交通サバイバル戦略は、首相官邸の政策コンテストでは全体で9位、国交省関係では一番の5千以上の意見が寄せられ、ほとんどが賛成意見、査定はBとなり、財源難の中で100億程度の増額予算となった。我々としてはさらに環境税創設の中で増額をめざし、地方公共交通の崩壊を止めようと考えている。

『地域公共交通確保維持改善事業』（新規） ～生活交通サバイバル戦略～ 23年度予算額 305億円

地域公共交通確保維持事業

- ・ 存続が危機に瀕している生活交通のネットワークについて、地域のニーズを踏まえた最適な交通手段であるバス交通、デマンド交通(※)、離島航路・航空路の確保維持のため、地域の多様な関係者による議論を経た地域の交通に関する計画等に基づき実施される取組みを支援
 - 都道府県を主体とした協議会の取組みを支援
： 地域をまたがるバス交通ネットワーク、離島航路・航空路の確保・維持等
 - 市町村を主体とした協議会の取組みを支援
： 幹線交通ネットワークと密接な地域内のバス交通・デマンド交通等の確保・維持等

※ 利用者の個別の需要(デマンド)に応じて、需要を集約した上で、ドア・ツー・ドア型輸送サービスを提供する形態の乗合輸送

地域公共交通バリア解消促進等事業

- ・ バス、タクシー、旅客船、鉄道駅、旅客ターミナルのバリアフリー化等を支援
- ・ 地域鉄道の安全性向上に資する設備整備等を支援
- ・ バリアフリー化されたまちづくりの一環として、LRT、BRT、ICカードの導入等公共交通の利用環境改善を支援

地域公共交通調査事業

- ・ 地域の公共交通の確保・維持・改善に資する調査の支援等

これまでの地域公共交通に係る国の支援策

- 期間限定の立ち上げ支援
- 広域幹線等に限定
- 事後的な補助が中心

これまでの支援策を抜本的に見直し